
俺と友達の悪あがき

すいっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と友達の悪あがき

【Nコード】

N1399Q

【作者名】

すいっち

【あらすじ】

目つきの悪い高校生のお話。

月野葵編

——はあ…

いきなりため息から始まって申し訳ない。

俺の名前は春崎奏、読みは「かなで」。

名前がよく勘違いされてしまうのだが、きとした男子である。

名前だけなら優しいような印象もとれるのだが…

身長176cm、体型普通、顔は…

目つきがよろしくない。順調だったのにここでコンプレックスだ。

その他のパーツは普通。

しかし端から見ればヤンキーにしか見えないという鋭い目つき。

そして、ダメ押しの——金髪。

…ああ、自覚してるさ。ヤンキーに見えることくらい

染めたわけではない。地毛だ。

染めりゃあいいって??

どういうわけか何度染めても元に戻るのだ

そして諦めたのが中2。

そんな近寄り難い雰囲気の俺だが…1人だけ理解者と言うか友達がいる。

結城空——ゆうきそら

幼い頃からよく遊んで高校生まで一緒。
幼なじみってやつなのか??

空は俺の事情を知っている為か普通に話が出来る唯一の友達だ。

ムカつくがルックスはかなりいい。

ただ性格がちよっとアレな部分で彼女は居ないが黙っていれば評判は良いらしい（噂だからよくわからん）

…で、俺の事情と言うのは

……まあその内にでも、

とにかく、そんな俺と空と問題児(?) 達の物語だ――

1、始業式の悪あがき。

――春、

出合いの季節、新たな始まりの季節だ。

今日は高校の始業式。

新学期にソワソワしながらクラスの可愛い子や格好いい奴が居ないかキョロキョロしたり、学校に馴染めるか不安そうな奴が居たり、同じ学校になって喜んでる奴が居たりとクラスは賑わっている。

だと言うのに……

ザワザワ……ザワザワ

俺の所属するEクラスは違う意味で賑わっていた。

理由は……まあ俺だ。

「……ねえあの人って」

「えー??…うわっ怖」

だの

「……おい、あいつって」

「バカ!聞こえるぞ」

だの

—————はあ

これが最初のため息の理由

小学校も中学校もそうだった。

慣れたといえば慣れたが……

「あの人には関わらないようにしよう?」

「うんっ、そうしょ」

流石に高校生だ

女子に避けられるのは傷つくなあ……

うむ。自己紹介で挽回を狙っていたがここは一度否定しなくては

ガタンっ

ビクッ

……………シーン

奏「ち、違う！俺は…」

一同「すいませんでしたっっ」

奏「え、ええ！？」

くっ、しまった！！勢いよく立ったせいで机が倒れてしまった。

みんなの合唱を思わせる謝罪に怯んで取り繕うのも失敗。

最悪のスタートを切ってしまった…

結局、自己紹介での挽回も失敗に終わり。

自己紹介のすべてが終わりHR後の休み時間

どうすれば挽回出来るかを脳内フル回転で考えている

マズい

何とかしなければ

第一印象ですでに距離を置かれているのだ

巻き返すには――

？「あのっ」

奏「ああゝっ？」

？「ひっ」

うあ、考え事してたもので威嚇するような返事になっていた。ちなみに担任も怯えていたのは置いておこう。

周りから突き刺さる視線が痛い。

えっと…この人は葵さん^{あおい}だったかな

名簿を事前に全部覚えたから間違いないハズだ

奏「あー…葵さん？何か用かな？」

葵「私は月野あお…ってあれ？覚えててくれたんですかっ！」

にこっ

おお…普通だ

最初はアレだったけど普通に話が出来てる…月野葵。優しそうな見た目で小柄な女の子だ。

けして小さい訳では無いが全体の印象からそう読み取れる。ついでに顔も可愛い。

葵「私、このクラスの責任者になったので挨拶してたんです。」

——責任者？？

ああ…委員会のことが
自己紹介の失敗でテンションが落ちてたからあまり聞いてなかった
な…

確か俺は余っていた雑用係りだったような気がする。

奏「そっか。それはどうも」

葵「ふふ、怖い人かなって思ったけど安心しました。よろしく願い
しますね!」

理解者がっ…分かってくれる人が居たんだな…感激だっ、いい子だ
しっ

葵「ではまた、困ったときはなんでも言ってくださいね」

奏「…はっ…わ、分かったありがとう」

去っていく月野さんを眺めながら感激する

——しかし、これが始まりでもあったんだ。

後に今でも後悔する事になるとはなあ…

2話へ↓

ここまで読んでくれた方、ありがとうございます!!

僕は今まで小説を書いたことがないのですが憧れがありまして

ついに書くことになりました。

読みにくくつまらないと思いますが読んで頂けたら幸いです

1日更新でやっていこうと思っているので是非ともご意見や感想を聞きたいです。

それではまた??

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1399q/>

俺と友達の悪あがき

2011年1月16日04時51分発行